

# 多摩市立グリーンライブセンター25周年を迎えて

小林 幹夫

(多摩市立グリーンライブセンター連携推進協議会会長)

長谷川 陽子

(恵泉女学園大学、多摩市立グリーンライブセンター担当)

## Green Live Center of Tama City 25th Anniversary Review

KOBAYASHI Mikio, HASEGAWA Yoko

昨年の9月に、多摩市において「緑のルネッサンスシンポジウム」および「グリーンライブセンター25周年記念行事」が、多摩市立パルテノン多摩と多摩市立グリーンライブセンターで行われました。

多摩市立グリーンライブセンター(以下、グリーンライブセンター)は、市民の「花と緑の活動の拠点」となる施設として、1990年4月29日に開園。その後20年を経て2011年4月にリニューアルし、多摩市、恵泉女学園大学および多摩グリーンボランティア連絡会とで構成する「多摩市立グリーンライブセンター三者連携推進協議会」(以下、三者連携推進会議)により企画運営されて、今年で開設25周年目を迎えました。この3年間余り、三者連携推進会議では、持続的なグリーンライフ拠点の確保および魅力向上に向けて、それぞれの特性を尊重し、合意形成しながら協力体制を強化することで、一定の評価を得、さらには、2017年をめどに施設のその後の存続を目指し、取り組みの考え方を明らかにして中長期ビジョンを構築しています。

本学は、三者連携推進会議の当初より、ガーデンと温室の管理、公開講座の開催、緑化相談を担い、運営の中心的役割を果たしてきました。

ガーデンは、これまで主流だった消費型の花壇設計から、人と環境にやさしい園芸を意識したものへと展開しています。これは本学教育農場での園芸教育や学外花壇などでの地域貢献の実践を生かそうとしたものであり、グ

リーンライブセンターでも、園芸を通じて自然や命、人間のあり方を学べる施設として植栽や管理の仕方を工夫し、来館者の方々が植物を美しいと感じ、心地よく過ごしていただけるように、心がけています。

花の相談をする。街なかの緑化活動の参考にする。オーガニックコーヒーを飲んでゆっくり過ごす、散歩コースとして利用するなど様々な目的で訪れる方々。グリーンライブセンターは多摩市民にとっての憩いの場でもあり、花やみどりの情報や知識を収集するための学びの場でもあり、時には訪れた人同士の輪が広がる集いの場でもあります。

多摩市においては、ニュータウン創世当初より、「みどりの都市」として緑化推進事業が活発に展開されてきました。そのためか、花と緑を愛好する市民は多く、緑化相談などの質問内容も栽培から、分類・同定まで多岐にわたっています。その対応には、学園同窓会の協力のもと、教員のサポート体制で備えてきました。今後も卒業生の方々の力を得て、恵泉の園芸教育の果実を社会に還元していきたいと考えています。また、多くの市民がグリーンライブセンターでの自然とのふれあいを通して、日々の暮らしが豊かになることを願うとともに、当施設が今後とも、本学の地域貢献活動の拠点となるよう学内学外の連携を強めていきたいと思っています。皆様もぜひ、この花園へお越しください。

(小林幹夫)



レイズドベッドを使ったワークショップの様子

多摩市立グリーンライブセンターは、1990(平成2)年に「みどり豊かで快適なまちづくり」を目指して、都市の緑化を推進していくための「みどりの拠点」として開設されました。開設25年を迎えて、当初掲げたコンセプトを持ち続け、さらなる発展に向けて運営されています。

恵泉女学園大学はグリーンライブセンターのなかで、四季折々の植物を楽しむためのガーデンや温室の植栽管理、講座やイベントの開催や、植物に関する相談に応じる窓口を担っています。

ガーデンでは数年前から、一般市民に親しみ深いバラの植栽を増やしています。講座で植え付けや剪定などの実習の場を提供し、受講生や修了生のボランティア約15名の方々が、日常管理をおこなっています。また近年は、見学者も多く訪れて下さるようになりましたが、個人の見学だけでなく、地域で花壇管理の活動をしている団体の見学も多くなり、市民の人材育成をおこなう「実践的な場」としてのサービスの提供が、地域社会に浸透しつつあるようです。見て楽しむ「憩い」の場としてだけでなく、市民が「集い」、「学ぶ」場として活用されるようになってきたといえるでしょう。

講座では、市内の小中学校や公共花壇、自治会や管理組合で活動を行う約30の団体に向けて、花壇づくりの講座を行いタネから育てて美しく飾る恵泉の特徴的な園芸を展開しています。講座の修了生約15名がその後ボランティアで集い自らの手でグリーンライブガーデンの管理をしていますが、園芸に興味をもつ学生もそこに加わって、学生たちにとっては人生経験豊富な先輩たちとの楽しい時間になっているようです。

また、バックヤードでは開設当初からの残渣が山積みになり、手つかずになっていたスペースの整備を進め、土や残渣を再生させるコーナーを設けました。そこに斜面地を利用し宿根草約150種類を植栽したガーデンを設置。奥峰子先生に公開講座をご担当いただき、丘陵地の多い多摩市で参考にしていただけるモデルガーデンを展開しています。

さらに講座内で作成したレイズドベッドを正面入口に設置し、近隣のデイ・ケア・サービスの方々が、そこで園芸療法に関心のある学生等と積極的に植え替えなどの作業をおこない、園芸の新たな可能性を追求しています。

恵泉の卒業生に担当していただいている緑化相談では、過去3年間にわた

る主な相談内容と回答をまとめた冊子を作成しました。季節感あふれ、読み手が楽しくなるような、暮らしに役立つものとして仕上げました。

今後も恵泉女学園大学が社会園芸分野の専門性を活かし、グリーンライブセンターを通じて地域貢献に寄与できるよう、私は担当者として、恵泉女学園大学と地域をつなぐ架け橋の役割を積極的に努めてまいりたいと考えております。

(長谷川陽子)